

群馬県での豚熱発生状況を踏まえ 農場の防疫体制を見直しましょう！

群馬県における豚熱の発生事例について、牛豚等疾病小委員会・拡大豚熱疫学調査チームが検討を行い、発生状況を踏まえた提言がまとめられました。

豚飼養農家向けの対策として、以下の3点が提言されていますので、これらを参考に農場の衛生管理を再確認するようお願いいたします。

1 農場周囲の消毒等

- ・群馬県の事例は野生いのししの豚熱感染が確認されている地域での発生
- ・農場柵の周辺では獣道やいのししによると思われる掘り返し跡等が確認



①野生いのししで豚熱陽性が確認され、

②農場近くまでいのししの接近が予想される地域においては、ウイルスが農場に侵入するリスクが高いと認識しましょう！

対策

- ・伐採などで農場周辺に隠れる場所をなくす(雑木林、河川など)
- ・柵外側の定期的な消毒を行う

➡ 農場にいのしし・ウイルスを近づけない！

- ・衛生管理区域内の定期的な消毒を行う

➡ 農場内へのウイルス侵入を想定する！

2 離乳舎の衛生管理

- ・ 発生は主に離乳舎のワクチン接種前後の豚で確認
- ・ 早期にワクチン接種した離乳豚群でも感染が確認
- ・ 発生豚舎内でネズミの糞や侵入経路となりうる隙間があった



①ワクチンのみで感染を防ぐことは困難で、

②免疫を獲得していない豚群では特にリスクが高いため、豚舎にウイルスを侵入させないための衛生対策を徹底しましょう！

対策

- ・ 手指消毒、専用長靴・衣服の使用、持ち込む資材の消毒

➡ **消毒済のキレイなものだけを持ち込むよう意識する！**

- ・ ネズミ等の侵入防止のため、破損箇所の点検・修繕
- ・ 侵入の痕跡がある場合は殺鼠剤設置や駆除業者へ依頼

➡ **ネズミ等にウイルスを持ち込ませない！**

3 消毒液濃度及び交換頻度

消毒は実施されていたが、消毒方法に改善の余地があった



①冬季の低温や有機物(飼料、豚の糞など)の存在を前提に消毒薬は適切な濃度で使用し、踏込槽など希釈後一定期間使用する消毒液は汚れがなくても1日に1回は交換しましょう。

②外部から持ち込む一輪車等は全体を消毒することが重要です。

十和田家畜保健衛生所

電話 0176-23-6235(平日) 携帯 090-6453-7023(休日・夜間)

ホームページ

十和田家畜保健衛生所

検索



異常の早期発見・早期通報をお願いします！